



No.007



のとけんだより



金沢医科大学 総合医療学講座

2011.9.1

＜新研修プログラム紹介＞

能登北部地域医療研究所の地域医療専門医プログラム 日本プライマリ・ケア連合学会から認定される！

—総合医・家庭医としての専門医資格を目指す皆さんへ！

総合医・家庭医・プライマリケア医のスペシャリストを目指す研修プログラムが完成しました—

専門医研修プログラム（3年）



認定機関
プログラム名
取得資格
研修施設
プログラム責任者
問い合わせ

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会認定
能登北部家庭医療後期研修プログラム
日本プライマリ・ケア連合学会専門医
能登北部地域医療研究所&公立穴水総合病院
中橋 毅（能登北部地域医療研究所所長・教授）
金沢医科大学 能登北部地域医療研究所
TEL 0768-52-0655, FAX 0768-52-0658
E-mail : ccm@kanazawa-med.ac.jp

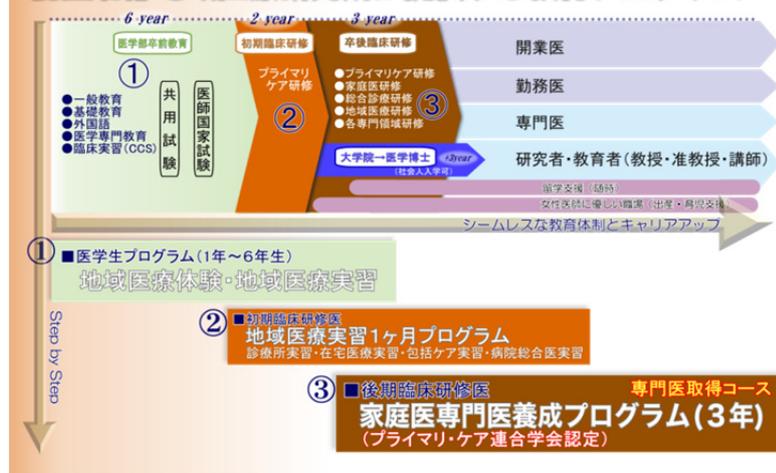
個々の希望に合わせた研修プログラムを用意しています

金沢医科大学 能登北部地域医療研究所では、能登北部地域圏に安定的に医師の定着を図る仕組みとして、特徴ある人材育成システムを構築してきました。当研究所では、その具体策として、総合医・家庭医としての専門医資格を目指す医師（後期臨床研修医や地域医療、開業を目指す医師）を対象として人材育成プログラム（3年間）申請の準備を進めてきましたが、今般、日本プライマリ・ケア連合学会から認定されました。これにより、地域医療をめざす初期臨床研修修了後の医師が後期臨床研修医として大学や病院に定着することが期待され

るだけでなく、他県の総合専門医・家庭専門医を目指す医師が本学に集まることが十分に期待されることになります。

本学は「教育の金沢医科大学」を合言葉に、社会から求められる良医の育成プランを準備して新しい時代の要求に対応しています。能登北部地域医療研究所は、医学部教育や臨床研修指導を大学や病院と一体となって進めて参りますので、“教育の場”“研修の場”として積極的にご活用ください。

能登北部地域医療研究所が提供する教育プログラム



①医学部生プログラム（1日～7日間）

- ✓ 1年生～6年生：診療所診療・在宅診療体験、包括ケア体験、地域医療討論会を中心とした内容

②初期臨床研修医プログラム（1ヶ月間）

- ✓ ミニレクチャー地域医療レクチャー、ポートフォリオレクチャー、高齢者診療レクチャー
- ✓ 診療：在宅医療実習、附属診療所実習、出産見学、出張診療、高齢者外来のほか公立穴水総合病院の各科の検査・診療業務および地域の2次救急
- ✓ 包括ケア活動：地域包括支援センター活動、老健施設あゆみの里実習、へき地診療所訪問
- ✓ カンファレンス

- ポートフォリオ検討会、入院症例検討会、救急症例検討会、地域医療討論会、包括ケア検討会、高齢者入院時評価検討会、医局症例検討会など

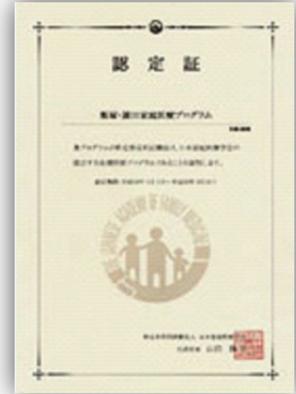


③後期臨床研修医及び開業準備医師（3年間）

- ・総合医・家庭医としての専門医資格を取得できる「プライマリ・ケア連合学会認定の研修プログラム」をつくりました。

医師としての生涯を決定づけるきわめて重要な期間です。大学院修了者には博士の学位取得を、臨床医志向者にはプライマリ・ケア研修・家庭医研修・総合診療研修などの経験を活かす開業医としての知識と技能が習得できます。また、臨床キャリアを積んで各スペシャリティ領域の専門医や指導医、さらにスーパースペシャリティを目指す道を開き、大学に残って教育・研究を続ける研究者の道、そして講師、准教授、教授へのコースを狙うこともできます。

将来の道が確実に描ける最善のプロフェッショナル・キャリアパス・プランを、医師研修者の希望や将来プランに応じて設定できるように能登北部地域医療研究所は全面的に支援をします。



一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会認定
プログラム名：能登北部家庭医療後期研修プログラム

1 日本プライマリ・ケア学会専門医（家庭医療専門医）とは？



イチローのように守備範囲が広い

家庭医療専門医は、臓器別の専門家ではなく、機能的な専門家です。フットワークが軽く、問題をうまくキャッチし、上手に速やかに対応できます。

○あなたの病気は本当に身体だけの問題でしょうか？

病気の原因は、単に臓器の異常だけとは限らず、生活や仕事、家族や友人との関係なども関わります。治療を受けるのは「あなた」であって、「心臓」や「ひざ」ではありません。症状のある臓器だけを治療しても本来の問題は解決せず、社会的背景を含めて総合的に治療します。

○あなたはどのようにこの医療機関を受診したのでしょうか？

あなたは「発熱」や「頭痛」、あるいはその他の理由で医療機関を受診されると思います。しかし、同時に何らかの「思い」や「考え」を持たれているのではないのでしょうか？体の問題と同様に、あなたの気持ちや置かれた状況、ご希望なども重要です。あなたの心に抱く思いを大切に考えます。

○クスリを定められたとおりに服用することはできるでしょうか？

認知症の患者さんをはじめ、決まった時間に正しく服薬できない患者さんは少なくありません。薬を飲ませてくれる家族はいますか。背中に薬を塗るのは健康な人でも難しいもの。また、働き盛りの人はしばしば昼食後の薬を忘れたりします。薬剤師と協力しながら、薬の飲み方や回数など患者さんに応じた対処法を考えていきます。

○受診を続けていくことは可能でしょうか？

診療を受けるためにはとても遠いとか、時間がかかるとか、困っておられませんか？高齢者の方の受診には付き添いまたは送迎がありますか？仕事をしながら定期的を受診できていますか？また、経済的な問題はいかがですか？往診を含め患者さんが医

療を受けることができるように配慮します。また、ケアマネージャーと相談しながら、各種医療補助の手続きや介護のお手伝い、経済面の検討なども行います。

○予防的な視点からインフルエンザワクチンを毎年接種していますか？

車に乗るときはシートベルトをしていますか？癌健診をいつも受けていますか？疲労がたまりすぎていませんか？気分が落ち込んで、何もやる気がしないと感じることはありませんか？骨粗鬆症になっていませんか？現在わずらっている病気に対する治療を続けていくのはもちろんですが、将来、病気にならないようにするのが大切です。つまり、予防医学や健康増進も考慮しながら、あなたの生活をサポートしていきます。

○難しい病気に対しても

残念ながら、現在の医学ではなかなか治らない病気があるのも事実です。「老化」については、多少遅らせることができますが、止めることはできません。病気の治癒や防止が難しい状況であっても、進行を遅くしたり、できるだけ通常どおりの生活を送ったり、痛みなどの苦痛を

できるだけ取ることができます。他科の専門医と協力しながら患者さんの生活の質（QOL）を維持することを目指します。

○地域の中のネットワークの広がりの中で

病気や障がいを持つ人の立場で考えてみましょう。「生活していく上では何が困難であるのか。そして、その解決のためには、どのように対処したらよいか」。この内容は人によって異なり、ケースバイケースで考えねばなりません。このような場合に、考慮にいれなければいけない資源として、地域の医療・福祉・介護・保健のネットワークが挙げられます。





障がい者が安心して生活を送るためには、各地域で、医療福祉保健の専門家の助言や、地域住民によるチームの支援が必須となります。このような場合、家庭医療専門医はリーダーシップを発揮し、地域の支援ネットワークをうまく構築していくお手伝いをします。

【家庭医療専門医が有する5つの特徴】

医師が「優れた医学知識と専門的医療技術を持ち、

医師としての人格、素養があること」は当然ですが、家庭医療専門医はそれに加えて、5つの特徴（図中央）を持ちます。これらを大切に、あなたや家族、地域の健康を守るパートナーになりたいと思ひ日々研鑽を積んでいます。

引用：日本プライマリ・ケア連合学会ホームページより

2 この専門医資格はどうすれば取得できるの？

- ・常勤医として公立穴水総合病院で勤務し、3年間の研修プログラムを受けて頂きます。
- ・日本プライマリ・ケア学会に加入して頂きます。
- ・修了者がポートフォリオなどの書類審査及びMEQ（Modified Essay Question）とCSA（Clinical Skills Assessment）試験を受けて認定されます。

【指導体制】

公立穴水総合病院をフィールドとした金沢医科大学能登北部地域医療研究所が行う研修指導は、日本プライマリ・ケア連合学会の認定指導医を中心に日本内科学会、日本老年医学会、日本プライマリ・ケア連合学会などに所属する指導医が行います。各診療科の研修ではその科の指導医および準指導医と共同で行います。また、研修者は能登北部地域医療研究所主催のレクチャー、セミナー、ワークショップなどにより知識や技術を身につけるほか、多職種カンファなどの活動を通じて、多職種から

の指導も受けます。また各研修者にメンター（研修者が指名した指導医がメンターを担当）を設定し、研修効率の向上や研究活動の補助のみならず精神面・生活面のサポート等も併せて行います。

また、平成22年1月に発足した「穴水病院医師を育てるプロジェクトチーム」（穴水総合病院および兜診療所などから選ばれた多職種によるプロジェクトチーム）が臨床研修に補助的に協力します。

【方法およびスケジュール】

全体としての3年間のスケジュール

本プログラムの3年間のモデルスケジュールは下表のとおりです。1年目は8カ月の総合内科研修と4カ月の小児科研修が設定され、それぞれ病棟診療・外来診療を通じて総合内科と小児科の基礎を習得するとともに「すべての医師が備えるべき能力」の基礎を身につけます。2年目は3ヶ月ごとに自由選択とし、選択診療科のスキルを高めると同時に全人的なアプローチと家庭医に求められる幅広い視野により「すべての医師が備えるべき能力」を習得するとともに「家庭医を特徴づける能力」の基礎を身につけます。そして、3年目は診療所での診療や在宅医療を中心とした研修と毎週のポートフ

ォリオ検討会により、「家庭医を特徴づける能力」を習得していきます。また、3年目では地域の疾病管理や個々の患者のライフサイクルに合わせた医療の実践のために、関連する福祉施設群との連携を重視した研修を行います。さらに、研修者の教育・指導スキルやチーム医療のスキル、研究活動や医師としてのプロフェッショナルリズムについては全期間を通じてメンターが各研修者につき、指導していきます。そして、メンターは同時に、研修医から研修上の悩み相談や進路相談、生活上の問題についての相談も応じます。

■ 3年間のモデルスケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
後期1年	総合内科病棟・外来									小児科病棟・外来		
後期2年	一般消化器外科*			高齢医学科*			産婦人科*			総合内科*		
後期3年	兜診療所研修						総合内科・在宅療養支援センター					

- ・2年目（*印）は選択研修となり、一般消化器外科、高齢医学科、産婦人科、総合内科のほか、循環器科、小児科、整形外科、泌尿器科、耳鼻科、眼科、皮膚科などの選択が可能である。
- ・希望者には1年目および2年目から週1～2コマの兜診療所研修を行い、長期にわたる継続的な家庭医療の経験が可能である。
- ・救急科研修はローテーションとせず日々の救急外来に担当医と連携して診療し、毎週行われる救急症例検討会によって理解を深める。



1～2年目のスケジュールの内容

後述の表は 1 年目の総合内科研修のモデルスケジュールです。この時期は、主に総合内科の入院診療・外来診療を行いながら、全科カンファレンス・抄読会、各種レクチャー、当直業務、高齢医学科カンファレンス、救急症例カンファレンス、多職種カンファレンスなどをとおして、地域に求められる医療の基礎的部分を固める時期です。まずすべての医師が備える能力を再確認するため、各種カンファレンスなどを活用して、病歴・身体所見・検査所見の評価からの確なアセスメントを行い EBMなどを駆使した医療判断ができていかなどのトレーニングを行います。またその一方で、家庭医・プライマリ・ケア医が持つ医学的な知識と技術の基礎をつくる時期でもあるため、多職種との連携などにより患者・家族中心の医療の基礎も身につけていきます。モデルスケジュールは総合内科研修時のものですが、小児科ローテーション、2 年目の選択ローテーションにおいてもほぼ同様の週間スケジュールとなり、臓器別の健康問題へのしっかりした対応能力を身につけるとともに、幼小児、思春期のケアから高齢者のケア、女性および男性の健康問

題、メンタルヘルス、リハビリテーション、地域の救急医療に至るまでの経験を積みます。当プログラムの特徴としては、穴水町が特に高齢化率の高い地域という背景に加えて指導医に老年病指導医がいることから、地域の高齢者疾患の管理に焦点を当て、高齢者総合機能評価、日々の高齢者の common disease への対応スキル、高齢者の急変時の対応、終末期医療などを経験し、そこから患者中心で家族志向の医療を提供する能力、包括的に継続的かつ効率的な医療を提供する能力、地域・コミュニティをケアする能力を育む点にあり、地域指向型ケアを目指すプログラムとなっています。



■ 総合内科研修の週間モデルスケジュール（1 年目）

	月	火	水	木	金	土
朝		抄読会			救急C f	
午前	病棟	外来	検査	病棟	外来	外来（隔週）
午後	総回診	病棟	病棟	当直明け	病棟	
夕	全科C f	レクチャー	当直			

- ・ C f：カンファレンス
- ・ 1～2 年目の小児科研修のほか、その他の選択研修もほぼ同様のスケジュールである。
- ・ 検査：内科系では内視鏡、心エコー、腹部エコーなどを主に検査の時間に担当する。ほかの診療科でも、これらの検査の他、その診療科に応じた放射線診断、臨床検査、生理検査などの研修を行う。

3年目のスケジュールの内容



3 年目の研修スケジュールは 6 か月以上の診療所での診療研修が中心となり、そのモデルスケジュールは後述のとおりです。希望者によってはより長期間地域の患者さんと縦断的に接することを目的として 1 年目から週 1～2 コマの診療所研修を行っています。これにより 3 年にわたり患者と接することで、より深い患者・家族志向型ケアの経験を積むことができます。診療所研修では外来診療が中心となるが、在宅医療も行いながら患者のみならず家族との交流を通じて地域・家族志向型ケアのスキルを高めていきます。具体的には、より重点的に特定の地域の診療所での活動を行うことにより、そこで

の文化を深く理解し住民と密接に交流することで、患者・家族、地域を十分理解・評価し、地域全体の健康増進に寄与する能力を身につけます。さらに、この時期には患者のみならず家族や地域住民からの健康や疾病の相談に対して、ある程度の確かなマネジメントができるようになることを目標とします。また、夕方からは週に 1 度、訪問看護師、ケアマネージャー、患者家族、ヘルパー、リハビリスタッフ、栄養士、薬剤師なども交えた地域カンファレンスを行い、チーム医療における主治医の役割を確認するとともに、全人的な地域における患者・家族のケアについての理解を深め、地域コミュニティをケアする能力を磨きます。さらに、毎週ポートフォリオ検討会を行い、診療経験を研修者のスキルアップにつなげると同時に、日々の診療の問題点をチームで共有し解決するスキルを身につけていきます。

また、3 年目の後半には総合内科診療を行いながら在宅医療支援センターにも属しつつ在宅医療も重点的にを行います。この時期の研修活動は、2 年半の研修によって得たスキルの総まとめの段階にあたり、これにより家庭医を特徴づける能力である地域・家族志向型ケアの各スキルの習得を確認します。



■ 兜診療所研修（3年目）の週間モデルスケジュール

	月	火	水	木	金	土
朝				ケアCf		
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来（隔週）
午後	地域活動	在宅医療	病棟訪問	在宅医療	Pf 検討会	
夕		地域Cf	レクチャー			

Pf：ポートフォリオ Cf：カンファレンス

【当プログラムが目指す医師像】

- 疾病に対する治療のみならず、患者医師関係や家族・隣人との連携によってより高度な問題解決ができる医師
- 小児から、女性、高齢者、そして終末期に至るまで、人生の各ステージに応じた問題対応能力を備えた医師
- 地域を理解し、地域に必要な疾病管理やヘルスプロモーションに積極的に介入できる医師
- 医療／介護スタッフや専門医などとの連携ができ、患者を中心に置いたチーム医療の実践ができる医師
- 地域で発生する救急疾患の初期対応ができ、高次救急機関への転送の判断ができる医師
- 医師としてのプロフェッショナリズムの自覚をもっている医師
- 生涯学習、チーム学習、教育・研究をとおして常に自己研鑽を行う医師



【当プログラムの特徴】

当プログラムの研修現場となる石川県穴水町は能登北部地域にある人口約 1 万人の町であり、その高齢化率は約 40%と 2050 年の日本の予測平均高齢化率に相当します。町内唯一の有床病院である公立穴水総合病院には、平成 22 年 8 月に金沢医科大学能登北部地域医療研究所が設置され、穴水総合病院と一体となった滞在型の地域医療臨床研修センターが発足しました。さらに公立穴水病院には附属の無床診療所（兜診療所）や訪問看護ステーションを有するほか、老健施設（あゆみの里）や穴水町地域包括支援センター、保健センターな

どが隣接しています。

このように地域の健康・疾病管理の中核として機能する環境と教育機関が一体となって、「地域の求める家庭医療を地域で学び・地域で育つ家庭医」の養成を目指すものが当プログラムです。そしてこれは、前述の医師像をもつ家庭医を目指し地域に密着した日々の診療をとおして、全ての医師が備えるべき能力、家庭医を特徴づける能力、家庭医療専門医が持つ医学的な知識や技術、などを身につけるためのプログラムとなっています。

<特徴>

- 穴水総合病院は高齢医学科を有し、高齢者診療に関する知識・技術や経験を深めることができる
- 穴水町には無医地区が5地区あり、在宅医療など地域の特性に合わせた診療経験ができる
- 穴水町唯一の有床病院のため地域の疾病管理においても中心的役割を経験することができる
- 在宅から入院、施設入所など患者のライフサイクルに縦断的に介入し経験することができる
- 指導には各現場の経験者に加えてトレーニングを受けた指導医があたる
- 病院スタッフや介護スタッフとの多職種の活動が多くあり、チーム医療の経験を深められる
- EBM の実践や自己研鑽、研究・発表などについても地域医療研究所がサポートする
- 医師自身のライフサイクルも考慮され、地域でのワークライフバランスのとれた労働も学び

